

## 7. DMP患者の心理特性

国立療養所南九州病院

杉田祥子 日高一夫  
西村喜文

DMP患者の心理的研究として、昨年度は達成動機テスト、コントロールテストを用いて研究を行いました。今年度も、2テストを用いて引き続き研究結果を報告致します。

### 〔目的〕

- ① ある場面に直面した場合にその場面をうまくやり遂げたい、他の人より良い成績を修めたい。というようなある目標に対してそれを達成しようとする動機。
- ② 個人の行動や態度がある出来事を左右する。つまり偶然の結果としてでなくその人自身の力によるものであるとどの程度判断しているか。という2点について、DMP者にどのような特徴がみられるか検討する。新たに長期入院ターベ病棟の患者をコントロール群に加え検討する。

### 〔方法〕

- 被験者 \* 15～41才DMP者23名  
\* 17～50才ターベ患者12名  
\* 健常高校生41名

### 〔結果〕

DMP者 (pt) と  
ターベ患者 (G I) の比較

	Su	M	SD	T
達成動機	pt	6.304	2.032	.083
テスト	GI	6.250	1.248	ns
Control	Pt	10.217	2.907	.940
テスト	GI	9.333	2.015	ns

pt と健常者 (G II) の比較

	Su	M	SD	T
達成動機	Pt	6.304	2.032	2.660
テスト	GII	3.220	1.235	P<0.2
Control	Pt	10.217	2.907	2.644
テスト	GII	12.171	2.801	P<0.2

障害度低群(L)と高群(H)の比較

	Su	M	SD	T
達成動機	L	6.0	2.760	3.031
テスト	H	10.5	8.560	$P < .01$
Control	L	10.7	7.29	.527
テスト	H	10.2	8.53	ns

〔考 察〕

DMP者と他疾患をもつ長期入院患者の間には、達成動機、コントロールテストともに差はみられませんでしたが、しかし、健常者との間には、両テストともに有意な差が表れています。この事は長期入院患者は等しく健常者より高い達成動機をもつ事を示しています。昨年度のDMP者と健常者の比較でも同様の結果を得ています。またADL高群および低群と健常者との比較を付け加えて行ってみました所、DMP者の方が1%水準で有意に高い値を示した。障害の進行した患者も健常者より高い達成動機を示している。一般の社会から半ば隔離された病棟で生活し、日常生活の多くを介助者の手に委ねなければならない障害者がなお高い達成動機を持っている事は重要な事を示唆していると思う。

障害度との関係では身近の世話の比較的自立できるADL高群の方が、低群よりも高い達成動機を示した。障害の進行に伴い達成動機の低下がみられる。ADL低群の患者は、生活の自立が困難で全ての事に職員の介助を要するが、この事が患者の達成動機にも影響を及ぼしていると考えられる。

次に達成動機の高い群は、達成動機の低い群より、コントロールテストの得点において低い値を示すという報告がありましたので検討しましたが、差はみられませんでした。

昨年度は、DMP者の達成動機の高いという結果を報告しましたが、今回同じ長期入院のテーブル患者との比較を行った所、同様に高い達成動機を示す事が判明した。今回は、それがどのような原因に基づくものか、明らかにできない。今後、長期入院やその他のどのような要因が、DMP者の達成動機にいかに関与しているか研究し、生活指導に役立てていきたい。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

DMP 患者の心理的研究として、昨年度は達成動機テスト、コントロールテストを用いて研究を行いました。今年度も、2 テストを用いて引き続き研究結果を報告致します。